

Cisco Catalyst 1300x 4_10_0_82 リリースノート

最終更新：2026年5月15日

はじめに

このリリースノートは、バージョン 4.10.0.82 用です。このソフトウェアは、Catalyst 1300x スタックابل マネージド スイッチ シリーズをサポートしています。



(注) サポートされている SKU の完全なリストと、SKU ごとの最小サポートバージョンについては、次を参照してください。

サポートされるプラットフォーム

次の表に、Catalyst 1300x シリーズでサポートされている SKU を示します。表の各行には Catalyst 1300x シリーズのいずれかと、各 SKU の説明、OID、およびサポートされる最小バージョンの情報が示されています。次の表に示されていないボードは、Catalyst C1300x リリースではサポートされていません。

sysOID のブランチ：iso (1) . org (3) . dod (6) . internet (1) . private (4) . enterprises (1) . cisco (9) . ciscoProducts (1) (以下の OID フィールドは、cisco (9) . ciscoProducts (1) から始まります)

表 1: Catalyst 1300x スタックابل マネージド スイッチ

デバイス PID	説明	OID	サポートされている最小バージョン
C1300X-10NU-2X	Catalyst 1300X シリーズ マネージド スイッチ、10x5G + 2 SFP28 (C1300X-10NU-2X)	9.1.3410	TBD
1300X-24MU-4X	Catalyst 1300X シリーズ マネージド スイッチ、24x2.5G + 4 SFP28 (C1300X-24MU-4X)	9.1.3411	TBD

C1300X-24NGU-4X	Catalyst 1300X シリーズ マネージドスイッチ、16 GE + 8x5G + 4 SFP28 (C1300X-24NGU-4X)	9.1.3412	TBD
C1300X-48NGU-4X	Catalyst 1300X シリーズ マネージドスイッチ、40 GE + 8x5G + 4 SFP28 (C1300X-48NGU-4X)	9.1.3415	TBD

新機能

ここでは、ファームウェアバージョン 4.10.0.82 の新機能について詳しく説明しています。



- (注) このリリースでは、802.1x コマンド「dot1x control-direction」はサポートされていません。このコマンドは、将来のリリースで追加される予定です。

SAN (サブジェクト代替名) HTTPS 証明書フィールド

Cisco Catalyst 1300x シリーズ リリース 4.10.0 では、ユーザーは、HTTPS 証明書を作成するときにサブジェクト代替名 (SAN) フィールドを設定できます。SAN を使用すると、1つの証明書で複数のドメイン名または IP アドレスを保護できます。これにより、単一のドメインのみをサポートする従来の共通名 (CN) フィールドよりも柔軟性が向上し、より広範囲をカバーできます。

SAN フィールドはオプションであり、自己署名証明書または証明書要求を生成するときに設定できます。



- (注) このリリースでは、この機能は CLI コマンドを介してのみサポートされています。GUI サポートは、今後の機能で追加される予定です。

OSPFv2 および OSPFv3 のサポート

C1300X シリーズ リリース 4.10.0 では、OSPFv2 および OSPFv3 がサポートされています。サポートされている設定および機能の詳細については、C1300x の CLI ガイドを参照してください。



- (注) GUI は、OSPF コマンドのサブセットのみをサポートしています。

スタッキングの強化

Catalyst 1300x シリーズの製品ラインでは、アップリンク インターフェイスが最大 25G の速度をサポートしているため、ユーザーは、スタックインターフェイス速度を 25G（デフォルト）または 10G に設定することを選択できます。



- (注) 25G は、アップリンク インターフェイスがスタッキング インターフェイスとして設定されている場合にのみサポートされます。（通常の）ネットワークポートとして設定された場合、最大速度は 10G です。

PoE 802.3BT

Catalyst C1300x では、一部の PoE インターフェイスは、最大 60W PoE を提供できる 4 ペア 802.3BT PoE もサポートしています。どのポートが 2 ペア 802.3BT をサポートし、どのポートが 4 ペア 802.3BT をサポートするかを判断するには、特定の PoE SKU の詳細情報を確認してください。

802.3BT オートクラス機能は、両方のタイプの PoE ポートでサポートされています。オートクラスは、自動/LLDP および手動によるアクティブ化をサポートしています。

FIPS 有効化 : GUI 制御

Catalyst 1300x シリーズリリース 4.10.0 では、GUI サポートが追加されており、ユーザーが GUI インターフェイスを介してこの機能を制御できます。

不具合

リリース 4.10.0.82 で確認された問題

不具合 ID	説明
CSCwr76525	<p>症状</p> <p>まれな状況でコンソールが応答しなくなることがあります。</p> <p>回避策</p> <p>SSH または Telnet を使用して CLI にアクセスします。</p>
CSCwr76554	<p>症状</p> <p>C1300x : Cisco Nexus スイッチとの UDLD 交換が失敗します。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>

不具合 ID	説明
CSCwr76557	<p>症状</p> <p>AIR-CAP3702I/CAP36021 AP がポートに接続されると、CDP でネゴシエートされた電力が 0 になります。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr71240	<p>症状</p> <p>ルートエントリが 3000 を超える状態で「show ip ospf database router」コマンドを実行すると、デバイスがクラッシュします。クラッシュ通知は次のとおりです： %SNMP-F-FTLERR: SNMP Package: SnmpCen Routine: 24 Location: 10 Error: Bad value returned by application: Range error: variable = 3353, field = rlOspfRouterLsaType, value =8".</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76537	<p>症状</p> <p>NIC がデバイスに接続されると、ショート状態のために、ポート PoE ステータスが「Fault」（障害）と表示されます。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr71246	<p>症状</p> <p>OSPFv2 ASBR アドバタイズメントで、ビット E（ASBR）がオンになりません。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76565	<p>症状</p> <p>no redistribute ospf [process-id] コマンドをオプションパラメータなしで実行できません。</p> <p>回避策</p> <p>必要な設定を使用してオプションパラメータを指定します。</p>
CSCwr76567	<p>症状</p> <p>OSPFv3 で、完全スタブエリアまたは完全 NSSA エリアにおいて、学習した/128 ルートが表示されます。</p> <p>回避策</p> <p>なし。これは表示の問題であり、機能には影響しません。</p>

不具合 ID	説明
CSCwr76572	<p>症状</p> <p>「show ipv6 route」コマンドの出力で、OIA ルートタイプが O ルートタイプとして表示される場合があります。</p> <p>回避策</p> <p>なし。これは表示の問題であり、機能には影響しません。</p>
CSCwr76574	<p>症状</p> <p>特定の状況において、MSTP トポロジが変化すると、ping が失敗することがあります。</p> <p>回避策</p> <p>なし。ICMP パケット転送が遅延し、そのために ping がタイムアウトになります。IP 接続は切断されていません。</p>
CSCwr69885	<p>症状</p> <p>C1300X のアップリンクポートに取り付けられた SFP-10G-T-X モジュールが、特定の C9200 モデル（C9200L-24PXG-4X など）の mGig ポートに接続した場合、リンクが確立されません。</p> <p>回避策</p> <p>可能であれば、9200 の非 mGig ポートに接続するか、別の SFP を使用します。</p>
CSCwr76652	<p>症状</p> <p>CDP ネゴシエーションを無効にしてから再度有効にすると、アクセスポイントが 30W の電力のみを要求した場合でも、デバイスが 39W の電力を供給することがあります。この問題は、クラス 6 をサポートする特定のアクセスポイントでのみ発生します。</p> <p>回避策</p> <p>AP を切断してから再接続して、電力が適切に供給されるようにします。</p>
CSCwr76655	<p>症状</p> <p>デバイスのオンラインヘルプに、自動検出が、サポートされているコンソール速度設定であると記載されています。しかし、実際には固定速度のみがサポートされています。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>

不具合 ID	説明
CSCwr76658	<p>症状</p> <p>OSPF が更新の送信を停止し、「clear ipv6 ospf process」コマンドが発行されるまで再開されません。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76659	<p>症状</p> <p>area area-id virtual-link コマンドで、md5 パラメータが message-digest-key パラメータの前にある場合でも、message-digest パラメータが受け入れられます。</p> <p>回避策</p> <p>なし。このコマンドは、どちらの形式でも受け入れられ、正常に機能します。</p>
CSCwr76660	<p>症状</p> <p>OSPFv2 ルートが RIP に再配布されない場合があります。</p> <p>回避策</p> <p>no redistribute ospf x コマンドを適用してから、redistribute ospf x コマンドを適用します。</p>
CSCwr76662	<p>症状</p> <p>Philips デバイスが CSR8510 Bluetooth 4.0 を搭載している場合、一部の C1300X デバイスで認識されません。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76663	<p>症状</p> <p>タイムゾーンが負のオフセットで設定されている場合、リモートログサーバーの syslog の日時が正しくありません。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76665	<p>症状</p> <p>OSPFv3 DR が、エリア内プレフィックス LSA で誤ったプレフィックス（たとえば、セグメントアドレス 2008:1::/64 の代わりに 2008:1::2/64）をアドバタイズすることがあります。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>

不具合 ID	説明
CSCwr76675	<p>症状</p> <p>DUTは、別のスイッチのPoEポートに接続されている場合、常に「Invalid signature detected」（無効な署名が検出されました）というログを表示します。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76694	<p>症状</p> <p>OSPFv3 仮想リンク hello タイムが複数回変更されると、その仮想リンクがダウンしたままになります。</p> <p>回避策</p> <p>clear ipv6 ospf process コマンドを適用します。</p>
CSCwr76698	<p>症状</p> <p>OSPFv3 の「nssa translator-role always」コマンドが正しく機能せず、ルートが引き続き別のルータから学習されます。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76699	<p>症状</p> <p>Cisco SFP-10/25Gbase-LR をスタッキングポートとして使用できません。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76701	<p>症状</p> <p>SNTP の Web GUI が、CLI と同様に、4 タイプの認証キーをサポートする必要があります。</p> <p>回避策</p> <p>CLI を使用して設定します。</p>
CSCwr76704	<p>症状</p> <p>SNTP ブロードキャストパケットを使用して時刻が更新されると、「last synchronized」（最後の同期）フィールドに、実際の同期時刻ではなく常に 00:00:00 と表示されます。これは単に表示の問題であり、時刻は正しく同期されています。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>

不具合 ID	説明
CSCwr76706	<p>症状</p> <p>親ルートである /64 も存在しているのに、OSPFv3 ルートテーブルに /128 ルートが表示されます。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76707	<p>症状</p> <p>エリアネットワークの OSPFv2 エリア ID を変更できません。操作が失敗した場合でも、「Success」（成功）と表示されます。</p> <p>回避策</p> <p>CLI を使用してネットワークのエリア ID を変更します。</p>
CSCwr76708	<p>症状</p> <p>OSPFv2 の設定後にデバイスを接続すると、「Bad Packet」（不正なパケット）というメッセージが表示される場合があります。これは単に表示の問題であり、OSPF ネイバークラスは正常に完了します。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76709	<p>症状</p> <p>SAN（サブジェクト代替名）情報を含む自己署名証明書を生成すると、一部のブラウザで、セキュリティ警告が表示されたり接続に失敗したりすることがあります。</p> <p>回避策</p> <p>Firefox を使用します。</p>
CSCwr76711	<p>症状</p> <p>QoS および ACL 用の最大ハードウェアリソースを完全に活用することができません。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76713	<p>症状</p> <p>Cisco CWDM SFP VID を show inventory コマンドで読み取ることができません。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>

不具合 ID	説明
CSCwr76715	<p>症状</p> <p>ポートがポートチャネルに追加されると、sFlow フローサンプルが機能しません。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76716	<p>症状</p> <p>CPU 入力レートが自動的に更新されません。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr76722	<p>症状</p> <p>SNMPv3 での AES256 および AES192 プライバシー方式を、Web GUI で設定できません。</p> <p>回避策</p> <p>CLI を使用して設定します。</p>
CSCwr76723	<p>症状</p> <p>PoE ポート制限モードで、LLDP の電力ネゴシエーションが異常な動作を引き起こす場合があります。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
CSCwr28463	<p>症状</p> <p>Cisco DBS-210 ベースステーションの電源を、PoE を介してオンにできません。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。